

展示「文書に見る昭和の恐慌 - 不況と社会 - 」

平成 21 年 12 月 16 日 ~ 平成 22 年 2 月 12 日

「勤儉週間 ポスター」甲賀郡
大正 14 年（1925 年）



「第 8 回勤儉奨励強調運動 宣伝ポスター」 昭和 2 年（1927 年）

大正中期から昭和初期は、第一次大戦後の不況や「金融恐慌」、さらに世界恐慌による「昭和恐慌」により、経済的危機が続いていた。この時期、全国では「民力涵養運動」が行われ、繰り返し、節約や貯金が奨励された。

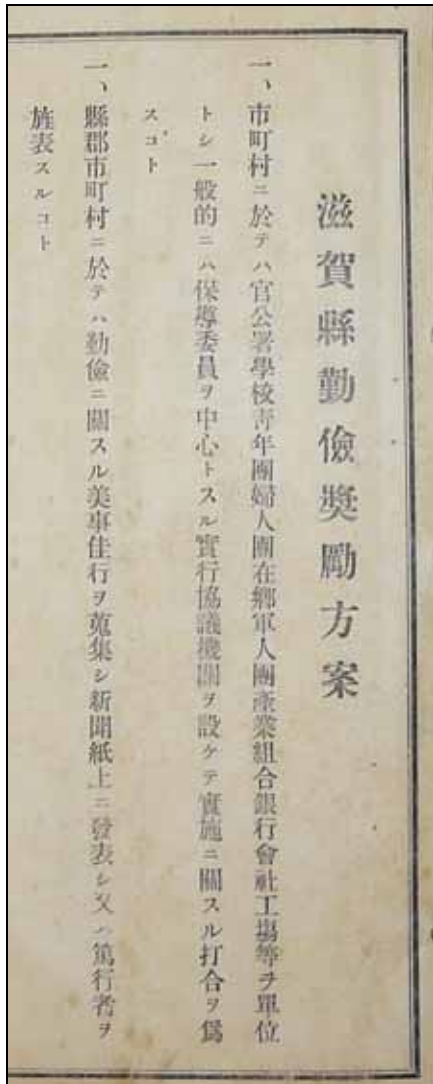
北比都佐村（日野町）において「生活改善の念を喚起せしむる目的」で配布されたポスター。

「滋賀県勤儉
奨励方案」 大正
13年(1924年)

県では内務部長や
警察部長などを委
員として「勤儉奨
励滋賀県地方委員
会」を作り、方案
を定めた。

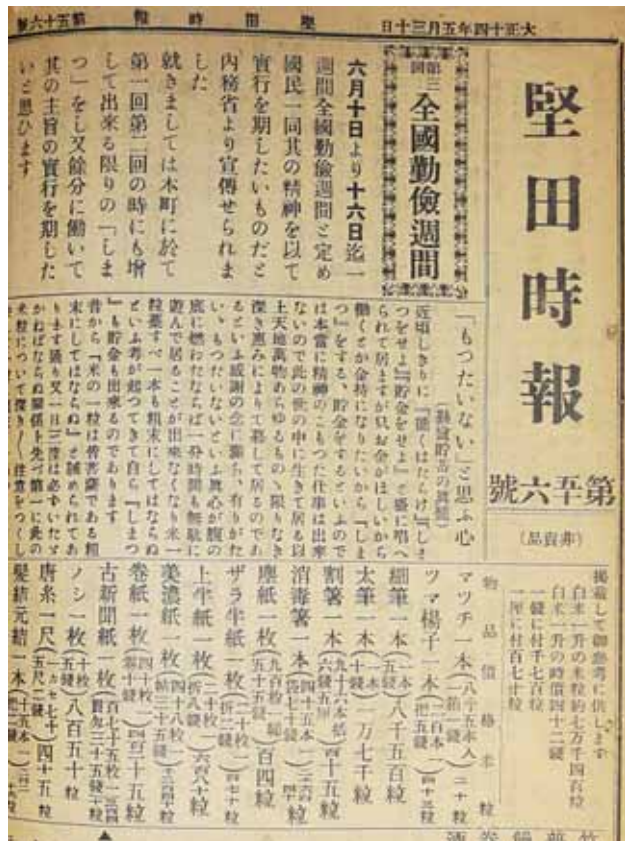
方案ではまず、「勤
労を尚び、業務を
楽しむ気風を養

う」ことから説いているが、実際には「奢侈を戒
め」、「貯蓄を実行する」運動となったようであ
る。
右は啓発ステッカー(?)



『堅田時報』第56号
大正14年(1925年)5月号

県下の各村は「勤儉奨励運動」に取り組み、貯金や儉約、節酒、早起きなどを奨励し、それらを訴える作文、標語、ポスターなどを作った。堅田町(大津市堅田)の広報誌『堅田時報』(大正9年発刊)には、物の金額を米粒で換算し、「もったいない」という心を育てようという記事が載せられている。



「職業紹介事業」（『滋賀県統計全書 昭和8年』）

		申込数			
		総数	登録	謝絶	
昭和	4	総数	1,404	1,404	—
		男女	1,152	1,152	—
	5	総数	1,614	1,614	—
		男女	1,297	1,297	—
	6	総数	2,171	2,171	—
		男女	1,348	1,348	—
	7	総数	2,634	2,634	—
		男女	1,994	1,994	—
	8	総数	6,351	6,351	—
		男女	5,320	5,320	—
			1,031	1,031	—

不況のもと、失業者の増加が社会問題となり、職業斡旋に力が入られるようになる。

昭和4年（1929年）に1,404人だった求職数は8年には6,351人にまでなっている。一方、国が失業者対策事業を興したため、8年には求人も8,478人に増加している。

求職者を上回る求人であるが、実際の就職率は51%である。求職者の希望職種には「小僧又は徒弟」、「僕婢（下男・下女）」などがある。

「職業紹介所認可の件」
大正11年（1922年）

大正10年（1921年）の「職業紹介法」の制定を受けて、大津市職業紹介所が11年4月に金塚町栄泉寺（京町）内に作られた。職員は所長と書記の3人である。事務室と待合室があるが、板の戸で隔てただけの簡易な作りであった。初年度の求職者数207人に対し、就職者数は186人。大正期には、まだ利用はさかんでなかった。

